

「日本を紹介しよう」（10時間扱い）

※ 研究開発学校 小学校英語科カリキュラム 6L3～6L4

授業者 伊藤 光・Wesley Folmar

1. 外国語科の目標、小学校英語科の目標、本単元の目標、育成を目指す資質・能力を踏まえた単元の評価規準

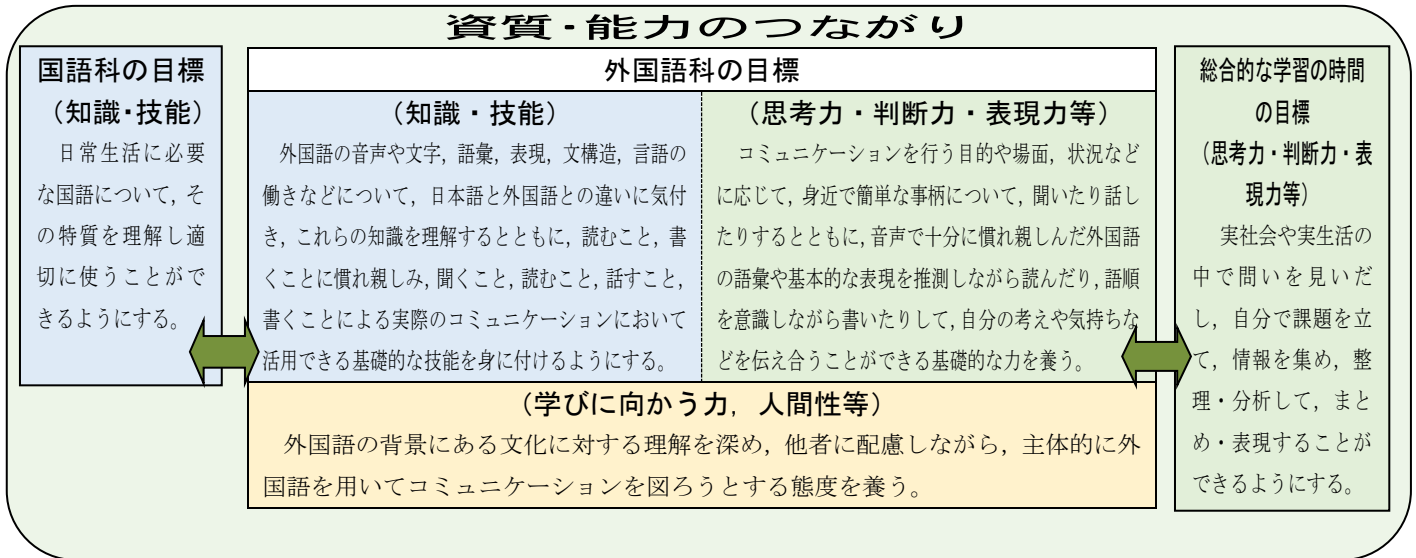
外国語科の目標	外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。			
	外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方			
	外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること。			
	個別の知識や技能 (何を知っているか、何ができるか)	思考力・判断力・表現力等 (知っていること・できることをどう使うか)	学びに向かう力、人間性等 (どのように社会・世界と関わりよりよい人生を送るか)	
外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどについて、日本語と外国語との違いに気付き、これらの知識を理解するとともに、読むこと、書くことに慣れ親しみ、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けるようにする。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりするとともに、音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養う。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。		
一体的に育成		左の過程を通して育成		
研究開発指定（小学校英語科）に関して	小学校英語科の目標【第3学年から第6学年】			
	英語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、英語の音声や基本的な表現を活用していく中で身に付けさせながら、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う。			
	小学校英語科 第5学年及び第6学年の目標			
	A 聞くこと 初歩的な英語を聞いて、話し手の意向の大体を理解できるようにする。	B 話すこと[やり取り・発表] 初歩的な英語を用いて、自分の思いや考え、事実などを話すことができるようにする。	C 読むこと 簡単な英語（単語・文）の意味が分かり、声に出して読むことができるようにする。	D 書くこと 簡単な英語を見て書き写すことができるようにする。
○ 身近なものを表す英語： 色、数、動物、野菜、食べ物、乗り物、形などの身近なものの名前、あいさつや動作を表す語句など。				
○ 簡単な英語： 身近なもの・ことを表す英語に加え、自分の気持ちや考えを伝え合うための語句・表現など。				
○ 初歩的な英語： 簡単な英語に加え、地域や国等の興味ある事実や意図を伝え合ったり、相手との関係を円滑にしたり、相手の行動を促したりするための語句・表現など。				
本単元の目標・評価規準	日本の食べ物、遊び、道具、名所、行事について説明するために必要な語句・表現等を理解し、自分の考えも交えて相手に配慮しながら簡単に発表することができるようにする。			
	日本の食べ物、遊び、道具、名所、行事について説明するために、必要な語句・表現等を理解し、それらを活用して話している。	日本の食べ物、遊び、道具、名所、行事について、伝えようとする内容を整理した上で、説明したり、自分の考えを表したりしている。	日本の食べ物、遊び、道具、名所、行事について、写真等で具体的に示しながら、既習の語句・表現等を活用して説明したり自分の考えを表したりしようとしている。	
	日本の食べ物、遊び、道具、名所、行事について説明するための語句・表現、文、符号を正しく書き写している。	日本の食べ物、遊び、道具、名所、行事について説明するために、単語を推測して読んだり、必要な語句・表現を選択したりしている。	単語を、既習の音声と綴りの関係に基づいて推測して読もうとしたり、語句・表現の綴りや語順等に注意しながら正しく書き写そうとしたりしている。	
	評価1 【知識・技能】	評価2 【思考・判断・表現】	評価3 【主体的に学習に取り組む態度】	

《単元について》

本単元では、ALTに日本を紹介することを目的として、日本の食べ物、遊び、道具、名所、行事について、それらの英語・写真カードを見せながら、自分の考えも交えて発表するための学習活動を展開する。単元の学習を通して、外国語の音声や文字、語句・表現、文構造等についての知識及び実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力（情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、伝え合ったりする）を身に付け、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度が養われると考える。

2. 研究との関わり

(1) 資質・能力の育成を支える「学びの文脈」～「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」を中心に



本単元における「資質・能力」を身に付けた子供の姿（例）

- ・ 日本の食べ物、遊び、道具、名所、行事について説明するために必要な語句・表現等を理解している。
- ・ 語句・表現を、綴りや語順等に気を付けながらカードに正しく書き写している。
- ・ 日本の食べ物、遊び、道具、名所、行事についての説明や自分の考えを、話したり書いたり、質問に答えたりするなどして表現している。
- ・ 既習事項を基にして単語を推測して読んだり、必要な語句・表現を選択して話したり書いたりしている。

外国語科（小学校英語科）において育成を目指す「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」

- ・ 外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどについての知識。
- ・ 聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能。
- ・ コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力。
- ・ 音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力。

- 手立て 1 ALTに日本を紹介するという明確なコミュニケーションの目的と振り返りの場を設定する

子供が課題を解決するために、語彙や表現を使う必然性を感じながら学習を進められるよう、上のような手立てを講じる。単元の開始期に、コミュニケーションのイメージをもち、既習内容（自分たちの町の名所・名物の紹介や行ってみたい外国とその理由の説明）との比較を通して解決への見通しをもつことで、自ら課題を設定し、主体的に学びを進めることができると考える。また振り返りにおいては、学習の成果を実感し、自分や友達の学びのよさを認め合いながら学びを深めていくことができるよう、振り返り内容をカードに記述したり、全体で共有したりする場を設ける。

- 手立て 2 役割分担しながら行う発表（プレゼンテーション）やそのための話し合い等を設定する

学習で用いている語句・表現を活用し、友達と協力して課題解決を図ることができるよう、上のような手立てを講じる。プレゼンテーションは4人程度のグループで、簡単な英語を使って行える内容とする。また相手に配慮しながら行うことができるよう、計画的に話し合いながら情報や考えを整理する場を設定し、発表内容に合う語句・表現を選択するためのリストを用意する。

- 手立て 3 書画カメラ、プロジェクター、タブレット端末等を活用する

プレゼンテーションの場で、内容をわかりやすく伝えるための英語・写真カードを提示し、説明箇所を強調しながら発表できるよう、書画カメラとプロジェクターを用意する。また、相手に配慮しながら発表することができるよう、自分たちのプレゼンテーションの練習の様子をタブレット端末で録画、視聴し、改善していく場を設ける。

3. 単元のグランドデザイン

	単元の開始期 学習計画を立てよう	単元の展開期① 言葉を集めよう	単元の展開期② 発表する準備をしよう	単元のまとめ期 日本を紹介しよう
時間	1時間	3時間	5時間	1時間（本時 10/10）
開始期	コミュニケーションの目的や場面、状況を知る。 プレゼンテーションの様子をイメージした動画教材を視聴する。	音声と文字とのつながりを意識したり既習の語句・表現を復習したりするための動画教材を使用してウォームアップを行う。 本時の学習の見通しをもつ。 ・ 学習計画や振り返りカードの記述内容に基づく確認		
展開期	日本の食べ物、遊び、道具、名所、行事について発表したり質問に応じたりするために必要となる学習の流れを押さえる。 ・ ALT への事前アンケート結果 ・ 既習事項の想起 ・ 興味・関心の喚起、焦点化 ・ 学習計画	日本の食べ物、遊び、道具、名所、行事について説明するために必要な語句・表現等を知る。 ・ カルタ ・ 連想ゲーム ・ 3~4 ヒントクイズ等の各種ゲーム	簡単な英語を活用しながら行うプレゼンテーションの準備をする。 ・ 発表してみたい内容に基づくグループ編成 ・ プレゼンの流れと役割分担の検討 ・ 必要な語句・表現の選択 ・ プレゼンで提示する英語・写真カードの作成 ・ プレゼン練習と相互評価	簡単な英語を活用しながら、ALT に日本を紹介するためのプレゼンテーションを行う。 ・ グループでの役割分担 ・ Show & Tell によるプレゼンテーションと相互評価 ・ 簡単な質問への応答
まとめ期	振り返り内容をカードに記述したり、全体で共有したりする。 ・ 振り返りカード ・ 「楽しかったこと」「わかったこと」「できるようになったこと」「生かせそうなこと」の視点による振り返り内容の共有。			

4. 本時案 (10/10 時)

<p>・ 日本の食べ物, 遊び, 道具, 名所, 行事について, 自分の考えも交えて相手に配慮しながら簡単な英語で発表することができるようにする。</p>	
学習活動 (○) と子供の姿	教師の支援 (☆) と評価 (◇)
<p>○ ウォームアップを行う。</p> <p>Now Mr. Cow, it's time to bow. どれも ow の部分が綴りも読み方も同じだ。</p> <p>頭文字を h にすると, how になるね。How are you? の how だね。I'm good!</p> <p>○ 本時の課題を確認し, 解決のための見通しをもつ。 ウエス先生に日本を紹介するためのプレゼンをしよう。</p> <p>ウエス先生に, 普段の日本食や日本の行事などについてもっと知ってもらおう。</p> <p>班で協力して, 写真などを見せながら, 簡単な英語で具体的に説明しないとイケないね。</p>	<p>☆ 身近なもの・場面とそれを表す英語の音声と文字との対応を理解していくことができるよう, 動画教材を活用した計画的なウォームアップの場を設定する。</p> <p>☆ <u>主体的に学習を進めることができるよう, 課題 (コミュニケーションの目的), 活動の流れ等を確認する場を設ける。</u> 【手立て 1】</p>
<p>○ 各班でプレゼン内容の最終確認をする。</p> <p>各班の発表時間は 2 分だ。自分が説明するところや使う表現を確かめておこう。</p> <p>英語・写真カードを見せながら, 説明箇所を指さしたり拡大させたりしてわかりやすくしよう。</p> <p>○ 班毎に日本を紹介するためのプレゼンを行う。</p> <p>Hello. I'm Hikaru. I'll show you kotatsu. This is kotatsu. It's like a table.</p> <p>ここでこたつのテーブル部分を拡大しよう。実はヒーターだということを説明するからね。</p> <p>But this is a heater. It's very warm. Cats like kotatsu, too. Thank you.</p> <p>もしウエス先生に Do you like kotatsu? と質問されたら, もちろん Yes! と答えよう。</p> <p>Hello. I'm Shogo. I'll show you hanetsuki. It's like badminton.</p> <p>羽根突きに似ているバドミントンの写真を見せたけれど, わかってもらえたかな。</p> <p>You play hanetsuki during New Year holidays. It's very fun. Thank you!</p> <p>もし Can you play hanetsuki? と質問されたら, Yes, I can. But I'm not good at. かな。</p> <p>プレゼンは得意になったけれど, だからといって早口ではいけない。語句のまとまり, 区切るところ, 視線にも気を付けよう。</p>	<p>◇ 日本の食べ物, 遊び, 道具, 名所, 行事について, 伝えようとする内容を整理した上で説明したり, 自分の考えを説明の中や ALT からの質問への応答で簡単に表したりしている。 評価 2</p> <p>☆ <u>友達と役割分担しながら協力して行う発表 (プレゼンテーション) の場を設ける。</u> 【手立て 2】</p> <p>☆ 作成した英語・写真カードの内容に沿って説明するよう促す。</p> <p>◇ 日本の食べ物, 遊び, 道具, 名所, 行事についての英語・写真カードを見せながら, 既習の語句・表現, 文構造を活用して説明したり自分の考えを表したりしようとしている。 評価 3</p> <p>☆ <u>発表内容をわかりやすく伝えるための英語・写真カードを提示し, 説明箇所を強調しながら発表できるよう, 書画カメラとプロジェクターの活用を促す。</u> 【手立て 3】</p> <p>☆ 説明した内容に関して進んで自分の考え (主に好みや印象等) を表すことができるよう, ALT からの質問に答える場を設ける。</p> <p>☆ 相手に配慮したより良い伝え方を追究できるよう, プレゼンを相互評価することを働きかける。</p>
<p>○ 単元の学習について振り返り, 内容を学級全体で共有する。</p> <p>発表を聞いてくれたウエス先生が Great! と言ってくれてよかったな。</p> <p>日本のことを説明するときには, 何か似ている他のものを見せると伝わりやすいことがわかったよ。</p> <p>難しい表現を使わなくても, 知っている簡単な表現で言い換えながら説明できた。</p> <p>留学生や JICA の研修生が来た時にも, 日本の文化について英語で教えることができそう。</p>	<p>☆ 学習の成果を実感することができるよう, 「単元毎の到達目標」に沿った振り返りカードを用意し, 記入する場を設ける。</p> <p>☆ <u>自分や友達の学びのよさを認め合いながら学びを深めていくことができるよう, 振り返り内容を X チャートで多面的に表しながら学級全体で共有する場を設けたり, それらに対する価値付けの言葉をかけたりする。</u> 【手立て 1】</p>